

相馬通信 (5月の新聞報道より)

(※1)



鈴木安蔵の功績学ぶ 小高で講演 平和考える

民間による日本国憲法の草案要綱づくりの中心人物で南相馬市出身の憲法学者、故鈴木安蔵氏について考える講演会は憲法記念日の3日、同市小高区の浮舟文化会館で開かれた。参加者は鈴木氏の功績と平和維持の重要性を改めて胸に刻んだ。

鈴木安蔵を讀(ただ)える会の主催。鈴木氏に師事した立正大の金子勝名譽教授が講演した。鈴木氏は旧制相馬中(現相馬高)から旧制第二高等学校(現東北大)、京都大に進学

し、民衆の幸福を実現するための憲法学を志した。太平洋戦争時は治安維持法によって弾圧を受け、投獄もした。研究会が提唱した憲法研究に励み、戦後は民間の「憲法研究会」に参加した。

法草案要綱には国民主権の明示、象徴天皇制の提起、戦争の放棄などが盛り込まれ、連合国軍総司令部(GHQ)の日本国憲法草案の参考にもなった。金子さんは「鈴木氏は日本国憲法の間接的な起草者と言える」と訴え、その功績を伝えた。金子さんは鈴木氏の生きざまを通じ、平和を守る大切さを強調した。

この日は小高区に保存され、国登録有形文化財になっている鈴木氏の生家が公開された。

講演会に先立ち鈴木安蔵を讀える会の総会が浮舟文化会館で開かれた。鈴木氏の生家の清掃や室内の修繕、広報紙の発行などを決めた。

公開された鈴木氏の生家

(※1) 福島民報 5月5日(金)

・鈴木安蔵：小高出身。相中第20回、大正11(1922)年卒。二高京大中退。

馬城かわら版第36号「弁論部の活躍・鈴木安蔵君の優勝原稿」

第39号 大正期(その8)8「校内暴力追放運動と同盟休校」

第40号 大正期(その9)9「読み物検閲と同盟休校」 に関連記事

・「紅の旗」(創立110周年記念誌)のp.74~76に「鈴木安蔵について」旧職員 若松丈太郎氏による特別寄稿あり。

(転載&※脚注 村山)